



2016年12/1朝 戸田から全議員へ 緊急の情報提供と訴え

(戸) 5中、3中

宮本市長は議員に対してウソの説明をしていた!

補正予算の「門真小敷地への3中校区の地域協働センター建設を取りやめることで、現存施設の撤去工事に補助金がつかなくなり、市の支出が増える」件について、市は、各会派・議員に対して

「地域協働センター建設の取りやめについて、5中校区・3中校区に11月に市長が出向いて説明会を行ない、多少の反発は出たが、住民に了承してもらった」

……との説明をしたが、これは全くウソだった!!

「11/15の5中校区地域会議での説明会」、「11/18の3中校区地域会議での説明会」では、
実際は、「意見交換」と称して場を持ったのに、一方的通告と支離滅裂な理由説明を行なって地域会議役員の猛反発を買い、「市の約束違反だ!」、「市の最高規範たる自治基本条例違反だ!」、「こんな話は了承できない!」、との結果になっていた!

特に「11/18の3中校区地域会議での説明会」では、

住民に対しては「持ち帰る」とか、「今後も意見交換を重ねる」とか、「着地点を考える」とか言ったウラで、さっさと「協働センター建設取りやめの議案」を作成！

★5中校区説明会と3中校区説明会の議事録を、 提供しますので、議員の方々ぜひご精読下さい。

校区会議役員の方々のこれまでの奮闘と真摯な姿勢、宮本市長のデタラメさがよ判ります。

◆これは「門真市の最高規範」たる自治基本条例への違反行為でもあり、絶対に許されない！

3中 11/18

第三中学校区地域会議及び市長 意見交換会議事録

日時 平成 28 年 11 月 18 日(金)午後 7 時~8 時 15 分

場所 第三中学校区地域会議事務所

出席 (地域会議)

玄番理事長、北中副理事長、長谷川副理事長、酒井事務局長
(門真市)

宮本市長、西参与、稻毛地域調整官、大倉公民協働課長、澤井公民協働
課課長補佐 合計 9 名

大倉課長

本日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。

それでは只今より、第三中学校区地域会議の四役の方々と宮本市長との、今後の地域会議や協働センターについてなどの意見交換を始めさせていただきます。それでは宮本市長よろしくお願ひいたします。

宮本市長

貴重なお時間をいただきありがとうございます。日ごろより、第三中学校区地域会議を立ち上げ頂き、地域活動にご専念頂いていることに、まずもって感謝申し上げます。

7月24日の市長就任以降、地域の在り方を考えていくなかで、この地域会議の範囲を中学校区がいいのか、小学校区がいいのかと考えますと、市全体となりますと、まだ立ち上がってない校区の方から、中学校区というのは厳しいのではないかというご意見をいただいており、全校区立ち上げられるかという課題を抱えております。

① 9月の議会のときに、このことに関しては中学校区で立ち上げていくのは中々に厳しいと答弁させていただいております。あともう一つは、地域協働センター建設の建設ですが、ここに関しましては、いったん白紙の形で考えております。

五中、三中の地域協働センターに関しましては、建設だけで3億円掛かる、ランニングコストで年間7千万、8千万程度見込んでいかなければならないという所で、中々厳しいと考えております、この建設に関しては今現在見送りをさせていただいたところです。

それぞれの中学校単位で活動いただいている所に関して、今後どのように進めて行くかと言うところに関しては、色々ご意見聞かせてもらいながら、今後考えて行きたいと思っておりますけれども、正直言いまして他の地域で考えた

宮本へ → ウケル

?

時にまんべんなく立ち上げていくのならば、小学校区単位ということを考えて行かなければならぬのかなと考えております、地域会議の必要性というのは、これまで色々なところで議論を進められているところであります、あり方も含めてざくばらんな意見交換をさせていただきながら、これまで中学校単位で進めていただいているところに関してはどのような形で繋げていくのかというところも含めて、いきなり来年から「はい、解散してください」というものではなくて、ある程度予算も含めて検討を続けていきながら、門真市域全体で地域会議のあり方を考えしていくのか、議論を進めたいと思っております。

そういうところで問題定義させていただいて、今進めていただいている現状なんかも聞かせていただきながら、今後のあり方を決めていきたい、ただ、先ほど申しました、地域協働センターに関しては、見送ることを含めて12月の議会に出てくることもあります、それより前に皆さんのがで意見交換させていただこうということで、このような形の場を作らせていただいたところです。よろしくお願ひいたします。

?

酒井事務局長

市長の方からはそれだけですか。

宮本市長

私の方からは、基本的に今どのようなところでご苦労をいただいているとか、現状どのように進められてこられたか等、お聞かせいただきたいと思っております。

玄番理事長

次第等はございませんので、自由な意見交換をしましょう。

酒井事務局長

市長がここに来られるのは、初めてだと思いますので、自己紹介を。

玄番理事長、北中副理事長、長谷川副理事長、事務局長の酒井です。

玄番理事長

総会が終わりまして、1年経ちました。最初の年度は4ヶ月程度で、この4月からが本格的な1年の始まりです。それまでに準備会、その前に呼びかけ人会議等々があり、これは市長さんも総会の資料等で確認されていると思います。そういう流れの中で、もともと、第三中学校区地域会議、本当に白紙のところで、市長さんが仰られたように、小学校区単位でやったほうがよいのではない

2

かという思いを持ちながらも、やっぱり中学校区でやる良さ、それから、地域会議についても、何もわからないようなところも、大阪狭山市へ見学も行う等して、こうやって作っていけばよい等のことを、吸収していく時期を過ごし、そして、色々な方に声をかけ、自治会の協力をいただき、そういう風なものが全て自治基本条例であり、そういうものを背景に私達進めてまいりました。

まさか、こういう風な時期がくるとは思ってもいませんでした。地域協働センター、これも白紙になるいうところ。これは地域会議のためだけに作られるものではなく、速見、門真の千載一遇のことを考え、防災上からの問題等を含めて、さまざまに多目的に使うようなものの建築だったと思います。地域会議に対して、具体的にこういう時期に建てますよっていう話があったかと言えばそうではないですが、もう、最初の段階から、こういう風な構想でという大きなものを示していただいた時には、もうそのこともはっきり役所の方から、揺るがないものとして、そう聞いておりました。そういう中でのことでござりますので、さっき仰った中学校区でのしんどさを知っていましたのは、努力をしてみる結果、今の段階では、57名の代議員さん、もちろん小学校区からになりますので、その半分ずつということになりますが、さまざまな立場からの人材をこれだけきちんと集めることはできなかつたのではないかなと。

そして、今までつながりの無かった速見さん、速見さんの方は門真校区の方と接点ができる、今までなかったことが、どんどん見えてきたというところもあります。ですから、今は中学校区であることが、本当に良かったなど。これでも、現実、この3月になりましたら1年で役員以外の人間、代議員の任期は1年で終わってしまいますので、それに代わる方を集めるのは、本当に大変な状況がやってくるのだろうと思っております。それでも、いろんなつながりができるてくるものであると思います。

そもそも、役所の中から地域会議という話を持ってこられた時に、自治会というものがあるって、そういうものをもっと力を入れた方ができるのではないかという思いがありました。今は、自治会でできることを超えてやらなければいけない、こういうところを今はしっかりと受け止めています。それで、どういうことなんだという話をていったらしいと思うのですけど、目の前にしている大きな課題、安心安全なまちづくり、そして、子育て・教育の問題、もう一つ、高齢者・障がい者も含めた福祉の問題、そういうことを現状にあわせて、考えていかなければいけない。役所でやっていただくことは、生活保護にしても、学校の支援をしていただくにしても、みなさん平等に一律にやっていただくものだと、そういう風に思っておりますし、役所がすることはそういうことで素晴らしいと思っておりますが、そこで見えていない部分、できない部分を引き受けて、個々に応じた、細部までみていくのが地域会議の役割ではないか

なと思います。1年目の私達がどこまでできているのかとなれば、それはとんでもない、まだまだの話であります。そういう地域会議の在り方をやっていけるという風に思っていましたし、そういうものを求められているという風にも考えて過ごして、この設立総会、終わってからは1年ですが、その前の年からしていました、この2年以上はそういう風な思いで、過ごしてきました。

今、聞かせていただいた話の中で、中学校単位、全部は中学校区でできなかつたですが、今、中学校区単位でスタートしているところのものについて、今更、小学校区単位っていうものを、持ってくる必要があるんだろうか。
それから、地域協働センターは、地域会議のものではなくて、地域住民のみんなの福祉のためを含め、そして、子ども食堂っていうものも具体的に考えていいけるのではないかなど、そういう受け皿を作っていくうえでの、本当に大事な箱物、箱物が必ずしも良いものではありませんが、それがなかったら動けないというところもあると思うので、白紙に戻すと言われた話は、いかにも残念であるなって、今聞きながら思います。

宮本市長

一つにはですね、今言われる子育ての問題にしても、高齢者の問題にしても、安心安全、防災面に關しても、一番活動の拠点で重要なのは自治会であると考えております。みなさまも一番ご認識いただいているところだと思っておりますが、その中で、私自身が危機感を持っておりますのが、2025年問題になる中で議論されていますが、介護、医療、高齢者の課題がという話になるのですが、自治会の構成一つとっても、2025年にどうなっているのかなど。地域会議が中学校区で考えることは、非常に大きな視野の観点からは重要であるとは思いますが、ただやはり、自治会の在り方を考えておかないと、今の自治会の構成が今申しましたように、10年後メンバー構成がどうなっているか、若い人の流入がどうなっているかというところを考えれば、自治会なんかを丁寧に考えなくてはいけない1年2年ではないかと考えているところです。

門真市域全体を見た時に、例えば門小校区なんかでも、新橋一つでいくつの自治会があると、でも他の地域では一町会の中で一つの自治会を形成していると。世帯数含めてですね、昔であれば、私たちが生まれ育った頃ですね、20、30年前であれば、当然、163号線より北側の地域であれば、人口のはりつけはしっかりとしているんですね。163号線より南側は世帯数はそれほどなかったわけですが、今、一番自治会の数が大きいのが、上三ツ島の方ですかね、南のほうであれば割と大きな範囲で自治会の構成がなされている。その辺のところも含めて、過去密集していたところと、そうでないところが万遍なくありますから、一つ一つの単位の在り方というのをもう一度、世帯数であったり人口の構成、

??

何を
言いたい
の？

宮本 説明 (何を言いたいのか 不明!)

これから 10 年後、どういう年齢構成になるかということを含めて、その内容を
しっかりとしていくことが、まず第一に介護であったり、高齢者問題ですね、ま
た、子育ても含めて、そのバランスを一番に第一に考えなければいけないの
かなと思っております。??

こういうところを第一義的に市として考えることが、地域に対して重要である
ということが、私自身の考えていることです。そのうえで、各種団体含めて、
非常に厳しい状況になっているのは、私自身、ここにいる皆さんは実感されて
いると思います。その中でも一番厳しいのは子ども会。子ども会が実質的に成
り立っていないところが非常に多い状況です。その中でも、割りと速見小学校
校区では、しっかりと活動をされているので、その辺では良いお手本のあるところ
は上手にやっていくべきであると思いますが、やはり自治基礎の基本は、中
学校単位というよりかは、私自身は、小学校区単位ではないかなとずっと思っ
ております。他の地域の中で、確かに中学校単位でというところはありますが、
過去においては、公民館運用とか、例えば、大阪市内なんかにしても、そういう
風な、形で作られてやっているところもありますが、実際、その運営をどう
回すかというところで、結構、難儀しているところ、過去に作ってきてですね、
そういうこともあります。??

校区の在り方っていうのも含めて、そこを第一義的に考えていいかないと、場
合によっては、一クラスしかない小学校というのが、門真にいくつか出てきて
いる状況ですから、みなさんお住まいの、またその中でお年寄りの方で
あったり、子ども含めてですね、ちゃんと、意見、手が届くところも意見集約
を第一義的にやっていかないことには、しんどいのかなという風に思っています。

人権擁護委員の時にお話させていただいたように、私自身、一番力を入れ
ようと思っておりますのが、就学前と思っております。ここの大きな課題とな
っているのが、若年出産。昨日、ちょうど総務省から順番に事務次官含めて
ですね、財政局長含めてお会いさせていただいたのですけど、若干お付き合いも
あった人も何人かいらっしゃる中で、未成年の出産比率が日本で一番高いとい
うのは、昔聞かされておりまして、そこからくる離婚率の高さ、私は實際は生
活保護率の高さの問題とか学力の問題、この辺の家庭の問題ではないかと思
います。家庭が何でしんどくなっているかっていうのは、若年出産、25歳以下の
出産比率でいくと枚方の2倍、未成年、15歳から19歳においても枚方の2倍、
これ実質的には全国平均の2倍なんですね。今、その段階までできていると。そ
うすると、そこに行政が手を差し伸べてやっていくとなると、当然、幼稚園と
か保育園とかの範囲になっていくわけあります。だから、確かに行政として
中学校区単位であれば、門真で6つになるわけですから、その中で、手を差し

何を言
いたいの
タ?

① 地域会議の中学校区単位には
やらない理由」の説明に全くなって
いない!

◎ 「行政による住民支援の様」とい、「小学校区単位をより良い」という話と、
~~自治基本条例~~「住民自治の具体化」には、「小学校区単位のみならず、中学校区単位を含む」は、次元の違う話です。

伸べてやっていくわけですけど、もうちょっと丁寧に入っていかないことに、人の密なつながりの中に、そういったところというのは、フォローしていくいいのではないかなど、思っています。

中学校区単位はですね、学校支援本部は、中学校を核に形成されているわけで、そこを一つの拠点としてやっていただければいいですが、地域のつながりに関しては、やはり基礎的な形成の中で、学校小学校を中心に空き教室というのがあるわけですから、そこを協働センターとして、活用していくことも含めて、具体的に進めていく方が、どちらかと言えば、地域を巻き込む動きは、より良くなっていくのではないかという風に思っております。

その中では、これまで培われてきたノウハウだとか、これまで1年だけではなくて、作ってきた過程とかは重々私も理解しているところもありますので、そのところを上手に、今言うような、私自身ここが問題と思っているような、共通の目標を持ってですね、なんとかカスタマイズ、地域協働をしていっていただきたいなと思っています。

【玄番理事長】

中学校校区になったからといって、各小学校区単位、ただ、小学校区単位の中にも、何自治会があるわけですからね。その内、柳町だけで考えてみても、柳町の中ですら、横の関係が作れているかといったら、つながっていないんです。一つの班で見ても、それでも十分ではない。それは中学校単位だからできないではなくて、小学校区単位であっても、難しいところは難しい。ですから、声をかける単位が、小学校単位であろうと、中学校単位であろうと、丁寧なことができていけば、それはどこであったって、可能になってくる。簡単なことではありませんが、それを繰り返しやっていくことの大切さっていうのは同じだと思います。

それから、子どもの教育費用うんぬんっていう話も聞かせていただいて知っておりますが、どこのどこが一番大事か、どう考えていけるのかという話になれば、卵が先か、鶏が先というね、そういう部分もあります。養護児童連絡協議会、そういう風なところにも行って、話を聞いておりますと、若年出産の話も聞きます。そういう子ども達が結婚をする前に、自分が生きるための方向性、そして、これだけ豊かなものがあって、そのことを自分のものにしようと思う、その夢を語れない子ども達がたくさんいる、その辺のことがどこから出発しているのかと言えば、幼児の時からの積み重ねもあるし、その上の子育て三代と言います。おじいちゃん達が自分の子ども達の子育てをしている時に、それだけの何をしてきたのかということが全部影響して、結果が出てきているということもあります。ですから、どこの部分を大事にしていかなければいけないのか、

という風には思います。

ですから、地域会議の中でやっている部分で、子ども達を巻き込んで、青年部会というものを作りながら、そしてやっていこうという中では、地域会議の狙っているところの、メリットであると思います。本当に、どこを見てもやらなければいけないことだらけだと、今の状況だと思うのです。子ども達を丁寧に育てていく、そして、将来の夢を描けるようにしてやる、そして、ご飯も食べられないような子ども達に、やはり今地域の中できることがあれば、組織を作ってやっていく。高齢者問題も一緒です。女性ばかりになってしまって、近所なんかそうですね。私自身、何年か先は、ここに住んでいるのか、施設に入っているのか、それともあの世に行っているのか、今考えるのですけどね、生きている間、何とかできる間、それはお互いに隣近所、そんなに大きな範囲ではないんですけど、手を繋いでいけないということは、そういう刺激を、地域の中から作っていって、みんな手を繋いでいこうね、ここに住んでいることを大事にしようね、そんなソフトな面の関わり合いを大事にしていかなければいけない。

⑩ それが中学校区単位であつたらできないというわけではなく、いきなり全部やれというのはできない。やっぱりベースになるのは、隣ではないですか。自治会も大事にしなければいけない。だから、中学校校区と言つても、各自治会との連携もきっちりとつていかなければいけない。目標を持っていくときも、ともにやっていけるようなメンバーを組織しながら、地域会議としての役割を続けていきたい。ですから、仰っていること、みんな入っていると思うのですけどね。

宮本市長

そのところは全然ずれているわけではなく、ただ、初めにお話していたとおり、今から一から立ち上げて、実質的に今の現状の中で、はすはな校区なんかは典型的な事例ですけど、今はみらい小校区の中でも12自治会ある状況で、3校区あったところが今の状況になるわけですけども、門真の中で、ここは地域会議があって、ここはないっていうチグハグな現状を、何らかの形で打開していくしかないといけないと。

玄番理事長

みんな同じ状況になればチグハグではないと？

宮本市長

ええ、全部の地域に一とおり。

玄番理事長



じゃあ、全部小学校区になつたらチグハグではないということですか？

宮本市長



そうです。

玄番理事長

中学校やつたら、チグハグだつてことですか？

宮本市長

ここは中学校、ここは小学校単位っていうのは、どうなのがなつていうのはありますね。

玄番理事長

チグハグっていうのが、どういう意味を持つのかつていうのは、、、

宮本市長

今の現状のチグハグは何を言つてゐるのかといふと、ここはできてゐる、ここはできていないつていうのが、よろしくないといふことを言つてゐるんですよ。

玄番理事長

それは、一気に立ち上げることができないために、できるところからポツポツ始めていくステップだと思うのですけどね、だから、なるべく早く立ち上げて、そういうメリットを共有できるような、状況にしてあげないと、自分のところも作つてほしいなと思っている人たちは、後回しになつて氣の毒ですね。

宮本市長

正直に言つうと、一度見ていただければ、中学校単位の校区っていうのが、どう切れてゐるのかつていうのが、本当に、三中校区の場合は、門小と速見で円形の形になるわけですけど、他地域となつたときに、必ずしもそうなつてきてない。そんな面でいえば、単位であるのは適當であるのかなというのは私自身、そして市民の方々というのも多いのかなというのを感じてきているところは正直ありますね。

??

玄番理事長



それって全部同じでなければいけないということですか？

宮本市長

こう言つてはアレですが、例えば行政サイドとして、その地域によって成り立ちというのは違うので、補助の打ち方ではないんですけど、交付金の在り方とか、そういう風なところに關しても、一定人口単位でというようなところもあると思うのですけども、何をもって公平にするのかというところはあると思うんです。だから、その辺のところの協議というのは、今後も進めていくべきですし、今後、小学校に關しても、この地域の場合は考えにくいと思いますが、校区の在り方っていうのを根本的に見直さないといけないという時期が来た時に、小学校の校区と中学校区の校区がガタッとずれてしまう。だから、自治会単位の構成の在り方も考えるという話も今後していかなければならないという時に、そこが上手にかみ合わない場合にどうなるのかなという心配はありますね。

だから、来年再来年の話ではありますけど、今後、初めから述べさせていきますように、中学校区単位の地域会議の必要性は十二分に分かっていますし、いらないと言つてはいるわけではありません。中学校という枠組みの中と、自治会単位となるのであれば、自治会の基礎単位をどう整理していくのかの方が重要になってきますし、そこのくくり方っていうのは、課題になってきているのではないかと思います。

玄番理事長

小学校単位で立ち上げられたら、そちらにあわせてないといけないということになるのかな。

宮本市長

ただ、来年再来年ということで、その単位ができるわけではないので。

玄番理事長

いやいや、それは反対ですよ。1年2年積み重ねていって、うまくいったという時分に、小学校区に戻せと言われた方が、尚更ショックですよね。

酒井事務局長

今、理事長が言ったのは、互いのことを延々と言っていただいたわけですが、

意味不明、とにかく中学校区ごとを否定するのみですね？

さっき市長が言ったように、今は五中と三中だけだが、他の校区は、もっと大変だと思う。あそこの 19 自治会は今でもまとまっている。

宮本市長

それでも、体育祭とかで、色々行かせてもらいますけど。

酒井事務局長

ただね、ここ三中校区も、2年前に公民協働課からお話をいただいて、主旨を聞いて、私自身は大変だなと思いましたけど、最終的には、何らかの形を残さないといけないと思ったのですが、賛同して、協力しようかという形になりました。だけど、まだ、門小校区なんかは月1回会長会議やっていて、まとまっている。速見さんもそう。これだけ小学校区でまとまっているところでやっとできたのだけれども、今言ってたような、2025年問題、PTAの問題、門小なんかでもPTA崩壊状態ですね。ほとんどが協力しない。今言うたように、自治会も、70歳、80歳と、年寄ばかり、会長の候補もいない。その問題の中、みんながどないかしようと頑張っている。みんな目一杯になっている。その中で公民協働課から話があって、その中で私がやったのが、準備会の立ち上げの時に、宮本さんはおられなかつたけど、副市長、市原部長がおられる中で、私はぶちまけた。行政としてね、自治会にできることを何で丸投げするんだと。だけども、我々はみんなボランティアだと。ボランティアをまとめるのは大変だと。

⑥ 最終的に行政の方から、後3年くらいで、協働センターを作るということを聞いた。そうなってくると、やる言うことで、今言うてたような、老人問題、子ども会問題、貧困の問題、行政にできないことを地域会議でやろうかという構想があったから、私はOKした。その中で、部署の長が出ていただいて、市原部長も出ていただいて、そういうことを約束してくれるのならば、私は地域会議の立ち上げに賛同するからという形で手伝った。ただし、今の市長の話だったら、市の行政の約束を破ったことになる。そうなつたら協力できないことになる。今の自治会もそうだけど、子ども会もそうだけど、みんな年寄になって、昔みたいにボランティアでやってくれない。何か餌をぶら下げないとやってくれない。市は、前任の園部さんの時に、いろんな団体の補助金をなくした。その中で、なぜ、自治会とか動かないようになったかと言えば、補助金を切った。いろんなことやるにも、お茶一本も行政は出さない。お茶一本でも餌。そういうことで、ご苦労さんいうことでやつたらみんな手伝ってくれる。その時代から、お茶一本も出さない。そうすると自治会に手伝ってくれる人は3分の1程

度になってしまった。だから、そういうことを考えて、市も餌をぶら下げてやらないことには、成り立たない。

だから、私は3年後に協働センターを作っていたい、貧困の子はそこでご飯を食べていたい、おそらく給食費も払えない家庭もある、そういう子らを夕方きて食べさせようか。老人、家で一人ぼっちの人に何かやってあげる。こういうことは行政にはできない。地域会議だからできる。そういう形で餌をぶら下げるなら私はやる、協働センターがなくなるのであれば、はっきり言って、やめる。

何か、これをやつたら、市もよくやってくれているなとかね、全部を同じようにやるには無理があるから、できる人から手伝って、救っていって、それがまとまって初めて、住みたいまち、住んでよかったなと思えるようになる。全部餌きつてしまつたら、何もなくなる。手伝うも者も、いなくなる。さっき言ってたような、2025年問題、全部老人なんかになつたら、自治会なんて成り立たなくなる。だから、その中で成り立たそうと思ったら、何か餌をぶら下げないとできない。その辺を考えてほしい。

玄番理事長

柳町も、本当に子どもが少ない。校区体育祭のリレーでもね、男の子と女の子がいて、男の子のところに、女の子が走って、それでやっとカバーしている。今年は過ごせるという形。

酒井事務局長

自治会でもそう。門小校区でも、新橋でも戻りつつあったけど、2つは活動を停止している。本町でも本町市住団地なんて、活動を停止している。だけども、その子ども達も、あと残っている自治会で来ていいよ、祭りも来ていいよ、そういう形でやっていっている。だけれども、自治会の大人は、役員するものがいないから活動停止してほしい。そうなると、後残った自治会でフォローしていかないといけない。市の行政なんて、何もフォローしてくれないのでしょう。そういうことで自治会なんかも、もっと大事にしないといけないし。だから、何か餌をぶら下げないと、今切つてしまうと、門真は動かなくなる。

玄番理事長

自治会の方が、どんどん潰れていくのでは。

酒井事務局長

行政にこんなことは言いたくないけど。

宮本市長

いや、今言われるところが、一番懸念しているもので、自治会の単位っていうのを、もう一度その辺で言えば、世帯含めて構成を考えるか。

??

玄番理事長

自治会を市が繋いでまとめて、こっちとこっちが一緒にするというのはできないと思うんですよ。それは、とんでもなく難しい話。あるものをまとめるのはできても、これとこれをつなげて、新たな自治会を行政的に作っていくという話です。同じ柳町の班ですら、おじいちゃんおばあちゃんだけになり、しんどくて仕方ないのに、それをこっち側とこっち側をくっつけてやるというのは、なかなかできない。それでもって、月当番とか班長だとか、2年に一回改選しますからね。

宮本市長

現実にその状況の中で、体育祭が成り立っていない校区もありますからね。かといって子どもの数が極端に減っているわけではない。そのエリアが高齢化してしまっているので、差が出ているのかなと。現実、子どもが少なくなっていて、体育祭ができなくなっているところもありますけど、子どもの数も十分いますけど、体育祭ができなくなっているという風に思います。

酒井事務局長

余裕がなくなってきたからね。

玄番理事長

世話をするというか、子ども会がね、昔お父さん、お母さんが、旗振りしてくれている人がいましたよね。そういう方がどんどんいなくなってきてているということ。それが校区の実態。だから、それを大きなところから引っ張り出さないとしんどい。^① 地域会議になると、中学校区の範囲ではせめてつながり続ける、それが一番大きなところかなと思います。これが二つの中学校となればとんでもない話ですけどね。

①「中学校区であることの必要性」！

酒井事務局長

今までこそね、速見校区、門真小校区、呼びかけ人として出てきてくれる人もいましたけど、これからは、もうどうなるか分からない。また、どんどん賃金が減ってきて、今の小学校中学校のお母さん方は働いている、パートに行って

ね。だから子どもの面倒も見れない。だから、自治会 PTA の活動もしていない。
働いているからできない。こういう現状やから、どこができるところは手伝つ
てあげなければいけないけど、何か餌がないと人が集まらない。だけども、い
なくなれば、北中さんも年だし、本町東の前川さんもそうだし、本町東のよう
に昔から活動していた 650 世帯あるところでさえも、次の会長がいない。

どうするかと言えば、前川さんが亡くなるまでやってもらわないといけない。
そんな状況の自治会なんて、沢山あるしね、だから何らかの形で自治会で我慢
してくれと言うと、それこそ自治会動かなくなるよ。今言ったように、みんな
平等に各校区立ち上がったらしいけども、今は五中と三中ができている。でき
ているところから、ちゃんと最後まで約束守ってやっていたらね、後の4つ
の校区もついてくるかもわからない。だからそういう形でね、見本作って、全
部ができるには時間かかるかもしれないけれども、やっぱりできるところから
ちゃんとして、建物建てても、長続きするかわからないけれども、今はできる
ように。市長には4年、最低3期はやってほしいけれども、門真としていいも
のができるように、私は、やっている。

だから、私は市原さんに約束させたのは、やってくれるのなら、やる。私の
声を全部録音していたと思うけど。ここだけの話だが、呼びかけ人の長谷川さ
ん、玄番さん、前川さん、中道さん、推薦したのは私。やっぱりトップの人が
ね、地域の方から出てきて、引っ張っていって、その中で 23 人の役員となって、
その役員が 53 人に膨らんだと。やっぱり誰か呼びかけ人となって、引っ張つ
いかないことは、こういうことは長続きしない。長続きしようと思ったら、
目標見つけて餌をぶら下げる、やらないことにはいけない。それを施設なくし
てしまったら、自治会の延長となり、誰もやるものはない。おそらく、そ
なると三中校区も潰れてしまう。ただ、五中の方は、自治会が好きな人が沢山
いるから。だけども、向こうも年寄ばかりだからね。今の人気が降りたらしんど
いだろうなと。だから、何か良い見本を作つてやっていきたい。

ただ市長は公言したこともあるだろうし、予算も大変だろうけど、ただ、そ
の中で何らかの工夫をして、言ったことは守つてほしい。今市長が言つたら裏
切つたことになるからね。

玄番理事長

こないだカラオケ大会をやったのですよ。健康カラオケ大会ですよね、それ
に 100 人来てくれたのですよね。みなさん楽しい時間を過ごして。この次も、
来てくださった方のつながりを深めていったり、広げていったり、それから、
みんながつながることでできることと一緒に考えていきたい。こないだの話を
している時に防災の話をうまく入れて、みなさん考えてくださいました。そう

⑩!

施設建設やめたら誰も協力しなくなかった!

いう風な話が、どんどん聞こえてくる。ああ、そうか、そういうことで地域のつながりが大事なのだなというのが、短い言葉で何度も入っていくことで、思ってほしいと思うんですけどね。

楽しければそれが良いということではなくて、みんなが門真で住み、ここで生きているのだから、生きているのであれば楽しく生きよう、力あわせて生きよう、できないことを、一人ができなくても何人かができるを持ち寄ったらだいぶ大きくなるじゃないかというね。そういう風にしなければ、これから25年問題ね。乗り切つていけないという風に思いますね。それで災害が起きた場合において、早く避難方法だとか、具体的にどうしたら良いか、周知しなければならない。そういう環境を私たちが提案していかなければいけないなと思いますね。

酒井事務局長



地域協働センターに関しては、門真小校区の会長に全部言ってしまっている
からね。3年後に建設されるよと。場所も、教育委員会から図面も貰ってね。
門真小校区の会長に全部説明しているからね。それも約束破ることになるよ。
先週聞いたけども、市が約束しなのであれば、自治会も協力しないよと。

市の前部長とともに、全部出てきていただいて、協力すると約束いただいたから、初めて立ち上げた。
その約束ができないのであれば、こちらも約束できない。だから、ここにおられる行政の方はすごくきつかったと思う。それぐらいの覚悟がないとできないのだ。我々ボランティアだから。みんなを引っ張るというの。

玄番理事長

私たちは、それこそ税金を扱わなければいけないですからね。

酒井事務局長

公金と言ふことも我々わかっている。だから、この公金の中からは役員にお茶代も出していない。だけでも、何らかの名目で来てくれた人は、お土産を渡すということで、餌をぶら下げる、それで初めて、いろんなことになってくれているからね。今は、何もしなかったらでてきてもくれないし、引っ張るのも大変だからね。

玄番理事長

長谷川さん。

長谷川副理事長

「小学校区では歴史理由」 ↓

いや、私も思うが、小学校言うたら校区になるのだけれどね、実際立ち上げようと思っても、おそらく人選が無理じゃないかなと。ほとんど、今やっている、各団体の育成会の会長とか、そういうのがまた連ねるだけで、活動的には何もないのではないか。今だったら、門真と速見でなっているから、なんとか人數的にもできているのではないか。というのは、私たちが思うのが、日程的にしんどかった時もある。ぱっとこの日に立ち上げるという。目標がなければ立ち上がらないというのもあるだろうけど。結局、今の欠点は 700 人に 1 人の町内から出しているのだけど、代議員を選んだけど、何名かは参加できないものが現実にいる。ということは、その時はその人にお願いをしてわかりましたよということになっても、実際蓋を開けてみれば、一切協力ない。そういうのも現状。だけども 1 年経って、代議員さんの任期が切れるんで、継続しようかというのは、100%はないと思う。協力しない、全然顔を出していない人はやめる。それは立ち上げるために粹的に必要だということで、頼んだ人も名前だけ貸してくれと言ったのか。中には、8つの部会があるけれど、あの部会がやりたかったなど、今頃本音を言う人もいる。一年経ったらそこへ変わりたいって言う人も現実的だね。だから、それが小学校校区になれば、あまり 8 つの事業が人選的に無理ではないかなと。大きい範囲で人を集めないことには。

しかし、いくら大きくて振っていけば小さいとここに集まるのだけど、ネックになっているのは自治会に入っていない人。そこが興味を示さない。ということは、結局、自治会入っている人とそうでない人で、あまり接点がない。

宮本市長

そこはどこも同じで、この前、五中でもお話をありがとうございましたが、一番ネックになっているのが、自治会に入っていない人をどうするのか。
?? → 「自治会=校区が運営する、地域会議ではないの!」

長谷川副理事長

自治会入っているもの同士は声をかけあっているが、入っていない人はどうしても、話し合いができていないから、こういうことすると言ってもどうしても、声をかけられないということが現状。だから、入っていない人が自治会に入ってなかったら行きにくい。実際そういうことはあると思うけど、接点がなかなかない。本当は、どんどん良い企画があるから、そういう人も来てもらって、別に差別をするわけでもない。そういう人たちには頭から、参加できないのではないかという意識があるので、私たちがやる行事には。

玄番理事長

⑩ ↑

自治会の入っている、いないは関係ない。地域会議は。自治会に入っているな

い人もきて良いという宣伝をしたらこれから来てくれるのでは。

酒井事務局長

実質立ち上げて、去年の総会11月から1年、各理事8つの部会、それぞれよく行事をやってくれている。それはものすごく評価している。だけど、それは目標を決めてあげないと、長続きしないし、何らかの餌をあげないと、目標がないと誰もついてこない。この1年で8つの部会、引っ張ってくれて、公民協働課からもすべての行事にお手伝いをいただいて、また、ほぼ1年ですべての部会で行事ができている。子育てサロンを月1回、よくやっている。潰したくないけど、何か餌がないと潰れてしまう。

玄番理事長

学校に登校できない子ども達もきているのです。ここで何時間か過ごして、それをきっかけに学校に通えるようになった。ここの中だけでやっていると、ああ、あなたたちがいるから、今私たち、今はここを使えないな、逆に、私たちがいることで、あの子たちを連れてこれないなとか、そういう現実もあります。

本当にここの中だけでは、今も動きにくくなっている。広いところが子ども1人2人でいるかと言えば、いりませんよね。しかし、そういう小さいところもある、大きいところもあるとなるとスムーズな運営ができる。⑥

酒井事務局長

いろいろあるけれど、ただその辺、我々の言い分として考えていただきたい。

長谷川副理事長

協働センターができるにあたり、その中に、防災の備蓄の場所も計画されていた。それがものすごく嬉しい。古川より西に備蓄センターがないのだから。NTTの倉庫借りてどうのこうのとあるけど、京阪より向こう。そしたら、古川より西側の備蓄、今あるのはプラザだけ。古川の水が超えたらどうするんだという。だから、備蓄センターできたら安心だということを地域のみんなに言っているから、何とかそういう形で伝えてほしい。

宮本市長

そこは必要なところであると手立てをしていくべきだと思います。

長谷川副理事長

それで、聞いていたのが、災害時の入居場所が公民館。あんな狭い場所が、

⑨

どんな受付するんだと。協働センターがあれば広いし、今考えているのは、体育馆。しかし、各拠点にそういうものがあれば、入居場所にも避難場所にもなるし、だから大きい形で計画されたい。

宮本市長

わかりました。

→ この意味は？

玄番理事長

地域の中で食を考えることができる場があるのは、すごいメリット。災害の際も、お湯ひとつ沸かせるのか。ガスが来ないときは尚更ですが。それでも、そういう設備が整った場所、避難場所を。

持ち帰りして、「意見交換しようと」
「これがいいんな社会がある」と着地点を探していく

宮本市長

いずれにしても、防災の観点にしてもそうですし、先ほどの言われた介護、高齢者の課題というのを、どういう形で解決していくのかを考えいかなければいけないですし、そこに関しては宿題という形で、お持ち帰りして、また追っていろいろな形で報告もさせていただきます。当初ですね、理事会等にお話を私の方から自分自身考えていることも含めてご説明しようかという話もりましたけれども、まずは、中心でされているみなさんに意見交換をしようと。そこは役所の方にきていただいて話をということもありましたが、やはり、私が出向いてお話をさせていただくべきだと思いまして、こういう風な形にしました。

こういう場所に限らず、これから、いろんな機会がありますので、意見交換としてするつもりですし、基本的に地域の課題は同じ意識を持っていると思います。ただ、先ほど申し上げますとおり、私としては、地域全体の中でどうあるべきか、ここだけできてここだけできない、ある程度形にならないといけない、芽に花をつけていかなければいけないという形で、今後、その辺の考え方は、一定ご理解をいただきたい。今後は、門真のこれからの方、来年の予算の方向性であったり、活動の方向を含めて、意見交換を進めていかなければいけないと思います。

先ほど申しましたとおり、12月3月に議会で議論を進めていく時に、地域の方々のご意見含めて、着地点を探していきます。

玄番理事長

⑩

お話を伺いましたが、理解したという、OKしたという意味ではありません。やはりセンターはほしい。中学校でやることの大切さを、しんどいけどしみじみと感じているところあります。こっちの方が良かったと思うところも

「我々はOKしたわけではない！」

ひととせ言ひ使ひて何を
タマズ！

??

⑪

あります。

酒井事務局長

今門真小も大変。芝生で。

長谷川副理事長

どちらになるかわからないけど、できるだけ門真全体でこういうものが早く立ち上がって、連絡会のようなことができれば。今後、五中の方とも具体的な話もできていないが、合流できれば。馬場さんともよく会うしね。

また全体で立ち上がり、全体で盛り上がれば、すごく大きな行事ができる可能性もある。いろんな人もきてくれるのでは。そしたら、各部会もしてくれるのかなというのもあるし。それにしても、各部会この1年投げやりにならずによくやってくれている。来年は、今年実施したものに肉をつけていけば、もっと人は集まる。今回は11月12月で来年度の計画が出てくると思うが。

酒井事務局長

来年の計画立てるために、大阪国際大学の先生にきていただいて、勉強させていただいた。やる気はある。市が約束破るのであればしない。

長谷川副理事長

先生いわく、一人ではなく全員でやらなければいけないと。だから、みんなに意見を発信し、みんなが土俵にあがらないといけない。一自治会に任せさず、地域会議の催しは地域会議全体でみんなが知っていないといけない。今年は、この部会がやることは知らない。参加もすれば意見もできるけど、参加もしなかつたら内容もわからない。しかし、みんなが話し合いするようにすることで、みんな来年度わかるようになるのでは。今年は各部会単体で、動いてたから。そこに任せてあまり、意見をいうのもどうかなというのもあり、せっかく計画してるのでこちらからどうのはどうかな。今年はみなさんの思い思いのものをしていただいた。部会との連携もできていないけど、今後は横の関係を作つたらいいのではないかなど。

酒井事務局長

私も、それは進めて協力し合ってやろうという思いはあった。

玄番理事長

住みたい門真、誇りを持てる門真、ずっと言っているではないですか。願いながらもなかなか実現できない。小さな一步なのですが、それを続けること

で確実に変わっていく意識を作っていく。今のうちに頑張りたい。門真大好き
です。大事にしたい。

酒井事務局長

今の若い人動かそうと思ったら、何かないと。子どももいる、時間もない。
そういう人の力になる拠点があつたらいいなという思いはある。予算の問題も
あるけれど、議会の中でも考えていただいて。我々ボランティアは餌がないと
動かないよ。

玄番理事長

またきてください。ありがとうございました。

宮本市長

ありがとうございました。